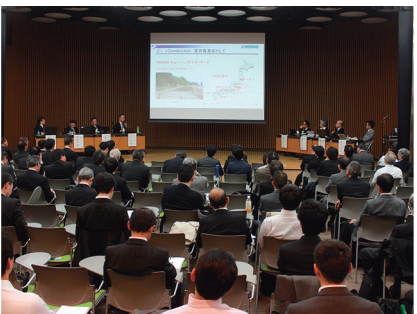


建設現場の未来議論

建機施工協がシンポ

日本建設機械施工協会は、東京都港区の機械振興会館で「建設施工と建設機械シンポジウム」を開き、i-Con structure（アイ・ストラクチャー）をテーマにパネルディスカッションを実施した。写真。

i-Conの活用事例を紹介した鹿島の三浦悟氏は、自社の持ち出しで技術開発を続ける理由に言及し、「どれだけ技術が進んでも人間にしかできないことは残る。これから確実に熟練工が減少するなかで、生産性を向上させ熟練者には熟練者にしかできない仕事をすする環境を整えたい」と強調した。i-Conは人間にしかできない仕事と機械で省力化できる仕事を明確に分けることになるという。



一方、中小建設業の立場からi-Conへの期待を発表した一二三北路の熊谷一男氏は「現場を取り巻く環境が変化し、新たな技術革新に対応する必要がある」としながらも、「既に導入しているツールも十分に使いこなせていない状況で、本当に新たな技術に対応できるのか。現状の管理を徹底しても生産性は向上できるのではないか」と急激な技術革新への不安を語った。

シンポジウムではパネルディスカッションのほか、熊谷氏による基調講演「ICTの導入による三方良しの公共事業改革効果」や論文発表などが開かれた。

